

Abstract

von Willebrand 病の女性と出血

von Willebrand disease and bleeding in women

M. V. Ragni, F. A. Bontempo and A. Cortese Hassett

月経過多は女性に共通した健康上の悩みであり、特に出血障害をもつ女性に多くみられる。しかし、最も一般的な先天的出血症である von Willebrand 病 (vWD) の女性に発現する月経過多や他の出血症状の機序については、ほとんど不明である。今回我々は、診断と治療のために当病院を紹介された 1 型 vWD 女性患者 38 例を対象に、月経過多の有病率、出血症状および第 VIII 因子活性、von Willebrand 因子 (vWF) 抗原、リストセチンコファクター (ristocetin cofactor)、出血時間 (BT) などの vWD 関連止血異常項目について検討した。その結果、月経過多はこれらの vWD 患者で最も多くみられる出血症状で、成人患者の 93.1% に発現していた。また、月経過多は最初の出血症状として最も多く、成人患者の

53.1% で初潮時 (中央値 14 歳) に始まっていた。最初の出血症状 (中央値 12 歳) から診断 (中央値 16 歳) までには猶予期間があった ($p=0.0049$)。しかし、手術を受けた経験のある患者の 94% には術前出血歴があったものの、vWD であると術前に知っていたのはわずか 6.2% にすぎなかった。この場合、出血は予防できる傾向がみられた。結論として、月経過多は vWD 女性患者に最も共通した出血症状であり、その症状は初潮時に始まるといえよう。患者および家族の出血歴を入手することにより早期診断が促進され、術後出血を予防できる可能性を高めることができるであろう。また、これは vWD を持つ女性の健康生活の向上にもつながるのである。